

令和5年度 教育活動計画

1 良き職業人となる

分掌	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
1 生徒課	生徒の自主活動の支援により、自立・自律を促す。	あいさつ運動	あいさつ運動 3回/月以上 委員会ごとの参加率70%以上	実施回数は達成している。 参加率が50%程度であるので、引き続き声掛けをお願いする。	b	実施回数、参加率(執行部)ともに達成できた。	b	継続	正門での挨拶はできているので、更に普段の気持ちの良い態度、身だしなみにつなげていきたい。
2 生徒課	校内巡視(授業中・昼休み等)の強化	生徒との心の通った関係を構築、保護者や関係機関との連携強化、巡視強化と各課科との情報共有に務め問題行動を未然に防ぐ。	生徒指導件数 50件以下 遅刻率3%以下	生徒指導件数 33件 1学期の遅刻率3.7% クラスにより差がある(0.2%~9.4%) 引き続き注意喚起していく。	b	生徒指導件数 55件 遅刻率クラスにより差がある0.2%~9.4%)	b	継続	全職員で巡視等を行ったが、指導が入らない生徒が増えている。粘り強い指導と関係機関との連携を進めていく。
3 進路課	就職希望者への進路指導	担任、各科長と情報共有を行いながら、応募前職場見学の励行、面接対策の充実など、就職試験に向けての事前指導を行う。	就職希望者の一次内定率90%以上。	今年度は1次試験103名受験。現在結果待ち。	b	一次内定率98%と非常に高い結果となった。公務員も述べ人数4名(市役所2、土改連1、自衛隊1)合格であった。	b	継続	生徒に企業を知る機会を増やすことで、幅広い選択肢を提供する。公務員講座の継続し、公務員の合格率を向上させる。
4 教育相談室	「いのちの教育」の推進	毎月スクールカウンセラーを講師に開催する研修会で心理学の理論と人間関係を構築するスキルを学び、生徒と積極的に関わるためのツールとしてもらう。	毎月の研修会への参加者が20%以上(教職員70名中)	9月までの定例研修会への参加者平均は13%であった。	c	12月までの参加者平均は13%であった。	c	継続	研修会について、事前の情報提供や案内を十分に行う。
5 建築科	生徒の状況把握 ビジネスマナーの定着	公開授業等で建築科各クラスの授業参観を行い情報共有を行う。定期的な科会を実施する。挨拶、身だしなみ、期限厳守の声掛けをする。	授業参観を年間2回以上実施 内容や成果を科会等で共有し生徒に伝える。 提出物の提出率95%以上	授業参観を1回実施(経年研公開授業を含む) 提出物の提出1学期99%(2学期製図課題等の未提出者への指導継続中)	a	授業参観を2回実施(経年研公開授業を含む) 定期的な科会の実施 提出物の提出2学期末93%(2学期製図課題等の未提出者への指導継続中)	b	継続	基本的な生活習慣を確立させ、授業規律、提出物の期限厳守を徹底する。
6 土木科	生徒の状況把握	土木科各クラスの授業参観を適宜行って情報共有を行う。生徒の活動を観察し、生徒の努力や成果を称える。	授業参観を年間4回以上実施。 内容や成果を科会等で共有し生徒に伝える。	中川:6回、御船:4回 井上:3回、仲村:3回 高原:2回、片山:3回	b	中川:12回、御船:7回 井上:5回、仲村:7回 高原:5回、片山:6回	a	継続	授業規律について状況把握及び問題への早期対応に必要である。
7 工業化学科	授業規律の確立	授業参加への準備、心構えを持たせ、社会人としての意識向上を目指す。	遅刻・授業退出を日平均5%以下とする。	遅刻・授業遅刻 5%以上 遅刻・授業遅刻がなかなか減少していない。	c	遅刻・授業遅刻 5%以上 減少のために家庭連絡など十分に行っているが、改善傾向も見られる。	c	改善	呼びかけの徹底 家庭連絡や保護者の協力
8 ロボット電気科	始業時・就業時のあいさつの励行指導	授業開始・終了時の挨拶を徹底する。	全員、声に出して挨拶ができるとともに、お辞儀の動作がきちんとできる。	学年が上がるごとに、雑になっている。礼儀正しく身だしなみも含めて指導したい。	b	挨拶はできるが、控えめの声や礼が多かった。3年生は、進路決定後もよかった。規範意識よく生活できた。実習前の点呼等で挨拶の練習や規範意識を学ばせたい。	b	継続	ロボット電気科としての規範意識のさらなる向上のため具体的な指導体制を整える。
9 保健体育科	基本的な生活習慣の確立	授業規律を確立する。	担当教員教員による評価80%以上	多くの生徒が、授業規律を守り活動ができていて、服装等が整わず、活動が低調な生徒もいる。	b	大半の生徒が授業規律を守りながら活動ができていて、授業開始時終了時の挨拶や服装については不十分な部分がある。	b	継続	挨拶、服装等継続して指導していく。
10 芸術科	鑑賞教育	多くの作品を鑑賞する活動を設け、多様な価値観があることに気づき、作品を批評する力を養う。	鑑賞活動を年間9回以上行い、生徒同士で意見交換する機会を9回以上行う。	鑑賞活動を3回以上行い、生徒同士で意見交換する機会を3回以上行った。	b	鑑賞活動を年間9回以上行い、生徒同士で意見交換する機会を9回以上行った。	a	継続	鑑賞活動で相互に意見を交換し合う時間を設ける。
11 芸術科	他者理解	様々な活動の中で自己理解と他者理解を行い、自他を尊重し合いながら鑑賞する取り組みを行う。	表現活動の中で生徒相互による意見交換を年6回以上行う。	表現活動の中で生徒相互による意見交換を2回以上行った。	b	表現活動の中で生徒相互による意見交換を年6回以上行った。	a	継続	生徒が他の生徒や教員の指摘を受けて表現活動を改善していけるような環境を整える。
12 外国語科	授業規律の確立	教材準備など学習環境を整える力を身に付けさせるとともに、授業開始終了時の挨拶を徹底する。	教材が準備できており、服装、姿勢を整えた状態で始業や就業の挨拶ができています。	忘れ物など、教材の準備ができていない生徒が少なからずいる。	c	挨拶の徹底については、まだ指導の余地がある。また、忘れ物や教材の紛失などで必要なものが準備できていない生徒が少なくない。	c	継続	挨拶、教材準備について根気強く指導を続けていく。

令和5年度 教育活動計画

2 社会で通用する豊かな力を身につける

分掌	学校経営目標	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
1 教務課	社会で通用する豊かな力を身につける	授業改善に向けた取組み	指導教諭、ICT室と協力しながら、公開授業やICT活用の研修等、具体的な取組みを図る。	公開授業の実施(1回以上年) ・ICT活用等の研修・共有(1回以上年)	6月に公開授業を実施した。のべ5名の先生方が授業を公開した。1学期中間考査に向けて採点システムの研修を行った。	a	11月9日・10日(終日)に学校公開を実施した。PTA会長を含め8人の保護者が参観された。外部の方が参観されることで授業改善の刺激になった。	a	継続	保護者以外にも外部の方が参観できるような公開授業を実施し、ご意見をいただき改善に繋げたい。
2 教務課	社会で通用する豊かな力を身につける	成績不振者を減少させる	1・2学期末に成績不振の生徒に対して面談を通して、現状把握と今後の取組について、担任や教科担当者から詳細な指導をする。(修正)	単位未習得科目数を3%減少させる	身体み前の面談で保護者にも成績の現状について共有し、今後の取組みについて、担任から指導をした。	b	令和4年度単位未習得者・学年・科目数(実人数)、1年66(34)、2年58(28)、36(26)、全学年160科目(88名)であった。	b	改善	年度が終わらないと、数字が確定しないため、達成度合いが途中で確認し易い目標に変更したい。
3 総務課	社会で通用する豊かな力を身につける	校内環境美化と新しい生活様式による校内衛生の充実	校内環境美化と新しい生活様式による校内衛生の充実	清掃用具の確認、校内清掃活動の充実を美化委員会とともに取り組む。	毎月20日に校内清掃を教員と美化委員で実施している。	a	毎月20日を中心日にして校内清掃活動をする事ができた。	b	改善	校内以外の場所の清掃活動も考えていく。
4 生徒課	社会で通用する豊かな力を身につける	部活動(生徒への啓発)の活性化	魅力ある部活動DVD・パンフレットの作成および部活動情報も盛り込んだ生徒会新聞の発行。	部活動加入率(1年80%以上、2・3年60%以上)、生徒会新聞 3回/年以上	加入率は達成している。新聞は現在2回発行済。	b	部活動加入率(1年97%、2・3年76%)、文化部34%、運動部49%。新聞は現在3回目を作成中である。	b	継続	運動部員の減少、名前だけで活動しない部員がいるなど課題がある。活気のある学校にしていきたい。
5 生徒課	社会で通用する豊かな力を身につける	峰南祭体育および文化の部の準備・実施	峰南祭体育および文化の部の早期計画、科ごとの計画、安全対策。	安全で充実した体育の部・文化の部が実施できた(教員・生徒アンケート)。	計画を遂行中である。	b	安全に進めることができた。内容の充実は来年に引き継ぎたい。」	b	継続	今年度は数年ぶりの復活で、来年に向けて更にスムーズな運営ができるよう計画に取り組みたい。
6 進路課	社会で通用する豊かな力を身につける	進路LHRや総合的な探究の時間の教材の企画・準備	インターンシップや進路講演会等を活用し、生徒のキャリア教育の推進を図る。	インターンシップの参加者を前年度より増やす。	今年度のインターンシップ参加者は96名であり、昨年度の89名と比べ7名増えた。担任や科長と連携し、参加企業の調整を行うことができた。	a	参加者は昨年より増加した。2月1日に、1年生へ向けた報告会を実施する予定である。また、津山広域事務組合と連携して、来年度の受け入れ先企業を増やしているところである。事前・事後指導を徹底や充実したものにする必要がある。	b	継続	津山広域事務組合との連携を図り、受け入れ先の拡充・拡大を行い、生徒の細かいニーズに対応する。事前・事後指導の充実を図るために、先生方と連携して取り組む。
7 進路課	社会で通用する豊かな力を身につける	進学指導体制の充実	大学進学者を支援するために、補習等を充実させる。また、大学調べや試験対策等、個別の学習指導を進める。	大学進学者希望者へ対して、個別に補習や大学調べ等の個別学習を行う。	大学進学者の支援として、個別に大学調べや補習を行っている。今年度は、国公立大学の希望者は10名であった。	b	今年度は国公立大学希望者は0名であった。大学進学者対象の補習など、個別に対応を行っている。	b	継続	早期の段階から希望者を対象とした取り組み。
8 進路課	社会で通用する豊かな力を身につける	資格取得を含めた基礎学力向上への取り組みの充実	検討会による分析やGKI等の取組を通して、学力の底上げを図る。また、各担当者と連携し、情報共有を行い、資格取得に積極的に挑戦させ、合格者の増加を図る。	基礎学力診断テストHDゾーンの減少や資格取得者を前年度より増やす。	検討会にて、新たな基礎学力向上となる指標について検討しながら、従来どおり長期休業課題やGKI、学年による取組等と連携しながら向上を図っている。	b	各学年に応じた取組を行うために、従来行われているGKを廃止し、新たに総合テストや専門科目の試験を行い、幅広い基礎学力の向上に取り組んでいるところである。	b	継続	普通教科のみならず専門教科の基礎力を向上させる取り組みの実施。
9 ICT室	社会で通用する豊かな力を身につける	ICT機器を学習ツールとして効果的に利用する授業改善	教務課、指導教諭と連携して公開授業やICT活用研修を実施すること。活用推進班を中心に、ICT活用に関する教科間の情報交換をすすめる。	1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケートにおける端末活用状況 前年度を上回る=A、同程度=B、下回る=C	ICT活用に関する情報交換会を定期的に開催(1学期実績4回)、8月末職員会議後に職員研修という形で実践事例を全体共有。 1学期末に教育情報化推進室が実施した「1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート」の端末活用状況はR4、R3年度と比較して横ばい状況である。活用推進に寄与するような情報提供を継続する必要がある。	b	ICT活用に関する情報交換会を定期的に開催(1学期実績4回、2学期実績4回)、8月末職員会議後に1月初回職員会議後に職員研修という形で実践事例を全体共有。 1学期末および2学期末に教育情報化推進室が実施した「1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート」の端末活用状況はR4、R3年度と比較して横ばい状況であり、活用推進されているとは判断できない。	b	継続	「1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート」の結果から、活用と非活用の人的2極化がみられる。後者に活用を促す取り組みとして、具体的、実践的、魅力的事例等、非活用から活用へと転換することに寄与する情報提供の必要がある。 ユビキタスな活用可能な環境の充実を更に進める必要がある。
10 建築科	社会で通用する豊かな力を身につける	ものづくりコンテスト木材加工部門に挑戦	授業および放課後で指導する。地域の人材(外部講師等)を活用する。	県大会出場、入賞 木材加工の取組を継続	今年度もものづくりコンテスト出場なし。来年度大会へ向けて、指導継続中。	b	来年度大会へ向けて、指導継続中。	b	継続	コンテストへ参加できる技能の習得を目指す。
11 建築科	社会で通用する豊かな力を身につける	各種資格・検定に挑戦	放課後補習を実施する。技能士などの実技指導は地域(外部講師)の人材を活用する。	計算技術3級90%以上 パソコン利用3級90%以上 建築CAD3級90%以上 2級建築施工管理技術検定30%以上	計算技術3級78%(前期31/40) パソコン利用3級(後期40名受検予定) 建築CAD3級100%(前期3/3) 2級建築施工管理技術検定(11月12日)受検予定者18名	b	計算技術3級78%(前期31/40) パソコン利用3級60%(後期24/40) 建築CAD3級100%(前期3/3 後期9名受検予定) 2級建築施工管理技術検定合格率56%(10/18名)	b	継続	放課後の検定補習を継続的に実施する。不合格者に対して次の受検合格へ向けた指導をする。
12 土木科	社会で通用する豊かな力を身につける	測量競技大会、コンクリート甲子園、製図コンテストに参加	授業及び放課後の指導により、競技会入賞及び中国大会入賞、全学年製図コンテスト入賞を目指す。	測量競技会中国大会入賞 コンクリート甲子園入賞 製図コンテスト各学年入賞 30%以上合格/選択者	測量競技会中国大会2年生出場 コンクリート甲子園課題制作中 製図コンテスト課題制作中 学習指導中	b	測量競技会中国大会2年生出場 コンクリート甲子園予選敗退 製図コンテスト課題制作中	b	継続	課題変更によりコンクリート甲子園は予選に通らなかった。新課題に向けた対応を科で共有していく必要がある。
13 土木科	社会で通用する豊かな力を身につける	2級土木施工受験	授業及び放課後の指導により、受験者の30%以上合格を目指す。	2級土木施工受験 者の30%以上合格を目指す	2級土木施工受験 者の30%以上合格を目指す	b	5名/29名(17%)が合格	c	改善	試験問題の難度が上がっており、対策が必要である。
14 機械科	社会で通用する豊かな力を身につける	ものづくりコンテスト等に参加	ものづくりコンテスト(旋盤作業部門)、溶接競技会、ゼロハンカー大会への参加・入賞を目指す	旋盤部門で県大会入賞 溶接競技会8位入賞 ゼロハンカー大会決勝戦進出	それぞれの部門で、上位入賞を目指して練習に励んでいる。	b	旋盤部門:後日実施 溶接競技会:圧力容器2位、24位 ゼロハンカー大会:第3次予選敗退	a	継続	コンテスト、競技会へ向けて指導方法の確立と練習時間の確保
15 機械科	社会で通用する豊かな力を身につける	資格検定・技能検定(旋盤・機械検査・機械保全)への挑戦	多くの資格検定に挑戦させる	計算技術3級90%以上/1年全 情報技術3級90%以上/1年全 基礎製図90%以上/2年全 機械製図90%以上/3年全 初級CAD90%以上/選択者	機械製図33名中10名 30% 基礎製図39名中 33名 85% 計算技術35名中32名 91% 初級CAD検定27名中25名 93% ※その他は今後実施	b	計算技術3級91%/1年全 情報技術3級後日実施%/1年全 基礎製図85%/2年全 機械製図30%/3年全 初級CAD 93%/選択者(27名)	a	改善	概ね目標は達成できたが、合格率の向上を目指すための指導方法の確立が必要

令和5年度 教育活動計画

2 社会で通用する豊かな力を身につける

分掌	学校経営目標	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
16	工業化学科	社会で通用する豊かな力を身につける	資格取得の推進	資格取得の増加を目指し、授業及び放課後の学習支援を行う。	計算技術3級90%以上/1年生 パソコン利用技術3級90%合格/2年生 パソコン利用技術2級60%合格/3年生 乙種第4類危険物取扱者80%合格/全学年 乙種危険物取扱者全額取得10名合格/2・3年生 ジュニアマイスター(シルバー)5名以上/3年生	b	計算技術検定3級 38名合格 パソコン利用技術検定3級 17名合格 パソコン利用技術検定2級 9名合格 乙種危険物取扱者 全額取得 1名 甲種危険物取扱者 1名	b	継続	試験1ヶ月まえより資格取得にむけて補習を計画し、学習時間を確保する。
17	デザイン科	社会で通用する豊かな力を身につける	検定に主体的に取り組む雰囲気作り	授業及び放課後の指導により、1つ以上の検定合格を目指す。	1・2年生の1つ以上の検定合格者50%	a	1年レタリング技能検定3級63% 2年パソコン利用技術検定3級59%	a	継続	合格者は増えたが年によってムラがあり、毎年指導方法の研究が必要。
18	ロボット電気科	社会で通用する豊かな力を身につける	資格取得の励行指導	資格取得、ものづくりコンテスト、ロボットコンテストへの参加を促す。	・計算技術検定3級合格率80%(R1全員) ・情報技術検定3級合格率80%(R1全員) ・基礎製図検定合格率80%(R2全員) ・第二種電気工事士合格率70%(R2電気コース) ・シーケンス制御3級技能士合格率70%(R2ロボットコース) ・ものづくりコンテスト電気工部門参加 ・つやまロボコン参加	a	・計算技術検定3級(R1 39名受験)合格37名 6月実施 ・情報技術検定3級(R1 39名受験)1月実施 ・基礎製図検定(R2 40名受験)合格29名 9月実施 ・第二種電気工事士 R2取得者14名(電気コース13/18名 ロボットコース2名) 3年生取得者7名(電気コース2名(10/13名取得)、ロボットコース2名取得) ・シーケンス制御3級技能士(R2ロボットコース22名受験)1月実施 ・ものづくりコンテスト電気工部門 5月実施 2名参加4位 ・つやまロボコン参加 12月実施 3台エントリー	a	継続	資格取得に関する知識技術の指導方法と体制づくりを見直し、効率よく生徒が学べる環境を構築する。 各資格取得目標値(%)は、多様な生徒の中の指導であり同じとする。
19	国語科	社会で通用する豊かな力を身につける	資格に前向きに取り組む	・授業中に漢字練習に取り組む ・検定前には補習を行う	漢字検定準2級以上合格者を年間で5人以上出す	b	2名の合格者が出ている。	b	廃止	次年度は課題考査の実施が有るので、そこで数値を表し基礎力の向上をはかりたい。
20	国語科	社会で通用する豊かな力を身につける	デジタル機器の扱いに慣れさせ、活用方法を創意工夫させる。	・授業内で定期的Chromebookを使用し、様々な使い方を試していく。 ・生徒自身で、どのような機能が目的に応じているか考えさせ、活用方法を考えさせる。	・すべての授業で、Chromebookで使えるアプリを2種類以上活用する。例Jamboard、スプレッドシート、ドキュメント、グループフォーム	b	Jamboardとドキュメントの使用を行っている。	a	改善	生徒自身が使い方を考えるところまで持っていきたい。
21	地歴公民科	社会で通用する豊かな力を身につける	ICTの活用による視覚的支援・授業の効率化	ICTを活用し、生徒の学習の視覚的支援を行うとともに、chromebookやGWSを活用して、情報の共有や発信を図る。	学期に3回以上、classroomやFormsなど活用し、情報配信をしたり課題提出などをさせる。	b	classroomを通じた情報発信はよくできている。一方で、classroomやFormsを通じた課題提出には手順の説明など支援が必要だった。	b	改善	今年度の取り組みを継続しつつ、次年度はICTの使用方法についてより一層指導を充実させるとともに、アナログとデジタルの両方から生徒の支援を図りたい。
22	地歴公民科	社会で通用する豊かな力を身につける	教科内外の授業参観を行い、授業力を向上させる	公開授業期間等を利用して、他教科および教科内の授業見学を通じて授業力向上および授業改善を図る。	他教科の授業を年間2回以上、地歴・公民科の授業を年間2回以上見学する。学期に1回以上教科会議を開き、授業見学のフィードバック等を行う。	b	公開授業月間等を利用した授業参観は継続中。教科会議では生徒の状況などの情報交換などができている。	b	継続	授業参観は次年度も継続したい。また、生徒の状況より観察しながら生徒の実態に即した授業を展開できるよう研鑽を積んでいく。
23	数学科	社会で通用する豊かな力を身につける	ICTの活用による授業の効率化	Chromebookを積極的に活用し、授業の質の向上を図る。	学年末に授業におけるChromebookの活用がなされているかアンケートを行う。	b	授業内での十分な活用はできていないが、クラスルームに授業プリントの解説をアップロードすることで、家庭学習の支援を行っている。 アンケート評価は3学期末に実施。	b	継続	Chromebookを使用することで、どのように数学的な力を効率的に伸ばすことができるか、検討していく。
24	理科	社会で通用する豊かな力を身につける	理科における基礎学力の向上	Chromebookの活用	定期考査での得点の向上	b	授業での振り返り、問題演習等に活用している。	b	継続	さらなる活用を検討する。
25	保健体育科	社会で通用する豊かな力を身につける	ICT機器の有効活用	授業の中でchromebookを有効に活用し、わかりやすい授業の展開を目指す。	情報収集等、chromebookの学期2回以上の活用	b	情報収集としてのchromebookの活用はできた。	b	継続	教員のスキルアップを図り、効果的に活用できるようにする。
26	芸術科	社会で通用する豊かな力を身につける	GWEの使用	クロームブックを使用し、表現と鑑賞に自主的に活用しているようとする姿勢を育成する。	GWEを学期に6回以上使用する。	b	GWEを学期に2回以上使用した。	a	継続	更にGWEの使用を増やし、生徒が主体的に活用する姿勢を促す。
27	芸術科	社会で通用する豊かな力を身につける	道具の理解	道具や楽器の適切な使用方法を学び、安全確保を行いながら、自己表現に活かすことができるよう指導する。	毎時、道具や楽器の管理、手入れを徹底し、安全確保の重要性を認識できている。	b	毎時、道具や楽器の管理、手入れを徹底し、安全確保の重要性を指摘している。	a	継続	安全確保の重要性を生徒自身が認識し、自発的に片付け・整理整頓ができるようにする。

令和5年度 教育活動計画

3 地域との連携と保護者・地域への情報発信

分掌	学校経営目標	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
1 総務課	地域との連携と保護者・地域への情報発信	保護者・地域への情報発信の充実	ホームページを随時更新し、本校教育活動を、保護者・地域に情報発信する。 ブログを週2回以上更新し、39メールと連動しながら情報発信する。	アクセス数 年間10万件以上 ブログ更新 年間120件以上	ホームページは、随時更新しているが、更新の不具合も多くあり、今後の課題も多い。 ブログも随時更新している。	b	ホームページの更新は、適宜行うことができたが、現在機材の故障により更新ができない状態になっているため、早急な復旧をおこなっている。	b	改善	機材を新しくし、新たなホームページの構築が必要である。
2 総務課	地域との連携と保護者・地域への情報発信	オープンスクールの充実	オープンスクールを本校アビールの場とし、中学生への興味関心を高める。 ①各中学校へのアピール ②実習体験・部活動体験等内容充実 ③安全対策を講じた上での実施	オープンスクール参加者 延べ人数50名以上	授業見学会 生徒100名 保72名 実習体験 生徒380名 保179名 部活動 生徒80名 保30名 目標人数はクリアしたが、申込方法など検討が必要である。	b	オープンスクールには多くの生徒・保護者が参加していただいたが、定員を満たしていない科が多く、効果的なやり方・内容の検討が必要である。	b	改善	申込方法の簡略化と専門科の授業内容や資格取得などのPRをよりわかりやすく、効果的な方法を検討する。
3 教育相談室	地域との連携と保護者・地域への情報発信	思春期の子供との関わり方などを津工ブログなどで情報発信して、保護者との信頼関係を構築する。	各学期に3回の情報発信	各学期に3回の情報発信	1学期に4回、9月に1回発信	b	1学期に4回、2学期に3回発信	b	継続	思春期の子供との関わり方など、保護者にとって役立つ情報を継続的に発信する。
4 1年団	地域との連携と保護者・地域への情報発信	保護者への情報発信を積極的にすすめる。	学年通信・クラス通信による情報発信	学年通信とクラス通信を合わせて年間回以上発行する。	1学期中に学年通信4回発行、2学期は未発行	b	学年通信は1学期に4回、2学期に2回発行済み。3学期は1回発行予定。	a	継続	なるべく保護者の方に情報発信ができた方がいいので、発行回数を維持したい。
5 2年団	地域との連携と保護者・地域への情報発信	保護者への情報発信を積極的にすすめる。	学年通信・クラス通信による情報発信	学年通信とクラス通信を合わせて年間回以上発行する。	現在3回発行。今後2学期は2回、3学期2回のペースで発行していく。	b	現在3回発行。3学期2回発行する。	b	継続	情報を発信していく。
6 3年団	地域との連携と保護者・地域への情報発信	保護者への情報発信を積極的にすすめる。	学年通信・クラス通信による情報発信	学年通信とクラス通信を合わせて年間回以上発行する。	現在学年通信3回、クラス通信3回発行している。	a	学年通信4回、クラス通信4回発行した。	a	継続	このまま情報発信をしていくべきである。
7 建築科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	地域貢献活躍する場の設定	学んだ知識を生かし、県産材などを使い地域に貢献できるものを制作し活用してもらう。	地域の施設等に納入1箇所以上 オープンファクトリー・出前授業の実施 掲示板に表彰等掲示、ブログの更新(年間0回以上)	課題研究において県産材を活用したベンチを製作中 オープンファクトリー実施 出前授業実施計画中 ブログの掲載(1回)	b	課題研究において県産材を活用したベンチを製作完了(施設搬入予定) オープンファクトリー8月3日実施 出前授業11月24日実施	b	継続	新しい内容・課題への対応を検討する。
8 機械科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	オープンスクールにおける魅力発信	オープンスクールを充実させることで、機械科の学習内容と魅力を伝える	体験内容を充実させ、志願倍率を向上	4ショップ実施。 中学生が興味・関心を持てるよう、実習内容を検討する。	a	4つのショップで実施し、実習体験の満足度は、達成できた。	a	継続	引き続き、オープンスクール等で機械科の魅力を発信していく。また、随時、体験内容の見直しも考える。ホームページの更新。
9 機械科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	津山ステンレスネットと連携(行政・企業)	ものづくりコンテストに向けての実技指導 企業との地域交流	ものづくりコンテスト上位入賞	企業との交流会&意見交換会を実施。 今後、実技指導を行う。	a	地元企業を知るきっかけとなり進路選択の一助となった。 月2回程度、実技指導を行い、高い技術を習得でき上位入賞できた。	a	改善	引き続き、地元企業と連携し地域を担う人材を育成する。また、企業先での実習体験等も検討していく。
10 工業化学科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	出前授業、地域貢献活動の実践	学んだ知識を活かし、地域で活動の場を広げる。	オープンファクトリーの実施 出前授業の実施	オープンファクトリー実施(2ショップ) 出前授業(予定)、高倉公民館(小学生対象)実施	a	オープンファクトリー実施(2ショップ) 出前授業(勝加茂小2学年)、高倉公民館実施	a	継続	実施する内容を新しくし、参加者を増やす努力を行う。
11 デザイン科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	デザイン科を中学生にわかりやすく伝える	①リーフレットの制作 ②オープンファクトリー・出前講座の実施	①年間3回以上の配布 ②年間3回以上実施	①OSで1回配布 ②OFで1回実施	b	①OSで1回配布 ②OF1回出前講座1回(小学生)	b	改善	①行事前は作成に手が回らない。 ②科の広報活動として中学生向けの講座を展開した方がよい。
12 ロボット電気科	地域との連携と保護者・地域への情報発信	オープンファクトリー参加出前授業の実施	生徒の積極的な参加を促し、「ものづくり」の楽しさ・良さを参加者に伝える体験をさせる。	オープンファクトリーおよび出前授業の実施	8月3日(木)オープンファクトリー実施 在校生が丁寧に小学生に教えることができた。 出前授業 10月予定	a	○オープンファクトリー 電子ランタン 全員完成 ○出前授業「フレミング左手の法則を学ぼう」 11月28日(火)実施 4・6年 モータ全員まわる	b	継続	コイルを支える部分を工夫改善し効率よく回転できるようにする。 トラブルに対応できるよう予測を含めた準備も心得ておく。

令和5年度 教育活動計画

5 分掌独自

分掌	学校経営目標	分掌の目標 分掌業務内容等	具体的な取組内容 (方策)	達成基準 (数値目標)	中間まとめ(達成状況) または最終まとめまでの方策	中間 評価	最終まとめ (達成状況)	最終 評価	次年度 方針	改善方法 または方法
1 総務課	分掌独自	各式典(学校行事)の計画と運営	各式典(入学式、卒業式、始・終業式)の確実な運営	感染状況(ステージ)に応じた実施形態をとる。	2学期始業式をコロナ禍以前の全校生徒対面形式に戻すなど、感染状況を考慮した行事を計画。ただし、熱中症対策などにもより配慮した計画を目指す。	a	前期と継続して、コロナ以前の通常式典の開催およびインフルエンザ蔓延防止策として、オンライン式典の対応など、大きなトラブルなく実施できた。今後は、季節や環境に適応した行事計画になるようにブラッシュアップを図りたい。	a	継続	コロナ禍以前の通常の式典の開催を、感染症防止対策等も行いながら開催した。次年度は今年度の反省を活かし、行事計画を図りたい。
2 1年団	分掌独自	学校生活のスマールステップアップ	3年間を見据えた学年集会の開催	毎学期2回程度 節目に学年集会を開催し、生徒に司会をさせる。「はじめの第一歩」を使った振り返りを行う。	学年集会を1学期に1回、2学期も現在のところ1回実施	b	1学期1回、2学期1回、3学期に1回実施した。生徒に司会をさせることができた。	b	継続	必要に応じて行う。
3 2年団	分掌独自	学校生活のスマールステップアップ	3年間を見据えた学年集会の開催	毎学期2回程度 節目に学年集会を開催し、生徒に司会をさせる。「はじめの第一歩」を使った振り返りを行う。	2学期はじめは、暑さとスケジュールで実施せず。修学旅行を踏まえた学年集会を実施する予定。	b	修学旅行前に実施。3学期の終わりに3年生を見据えた学年集会を実施する。	b	改善	節目に実施。50分すべて使えない場合は、クラスでの取り組みも考える。
4 2年団	分掌独自	進路実現への工夫	1年次から使用している問題集(SPI)を引き続き朝学で活用をする。(4月末・5月初頭)SPIテスト、学年独自のテストを実施する。	70点以上を学年の20%以上とする	5月で一旦学年の取り組みを終了。2学期終わりから3年に向けて実施する予定。	b	5月で一旦学年の取り組みを終了。3学期実施するか検討中。1学期は実施したが、2学期は実施せず。	b	改善	実施するために準備が必要。取り組み方を工夫しないと生徒も取り組まない。3年では進路を見据えて実施する必要がある。
5 3年団	分掌独自	学校生活のスマールステップアップ	3年間を見据えた学年集会の開催	毎学期2回以上の学年集会を開催し、生徒に司会をさせる。「はじめの第一歩」を使った振り返りを行う。	1学期2回、2学期1回学年集会を開催できている。	a	1学期2回、2学期2回学年集会を開催した。	a	継続	生徒の学校生活を支援するために必要だと思われる。
6 3年団	分掌独自	進路実現への具体的取組	SPI問題集を朝学の時間を利用して取り組む。	週に2回行い、まとめのテストで70点以上を学年の30%以上とする。	Chromebookを使って、週2回のSPI問題練習を行っている。	b	週2回のSPI問題集を朝学で行った。先へと続ける生徒もいた。	b	改善	進路決定のために対策は必要である。2学期後半以降をどうするか考える必要がある。
7 土木科	分掌独自	授業規律の確立	授業準備や授業開始終了時の挨拶の徹底など、授業に取り組む姿勢を整える。	教材が整い、授業に対する姿勢ができています。	授業開始前に準備を促している。各学年において準備の状態が進歩してきた。	b	授業前に促すことで概ねできている。授業評価アンケートは3学期に実施予定。	b	改善	授業に対する姿勢を専門教科だけでなく、普通教科に対してもできるように指導が必要である。
8 デザイン科	分掌独自	授業規律の確立	生徒に授業の「あたりまえ」を定着させる。	授業開始までに準備・着席。挙手して発言。期限内の提出。	学校遅刻・移動教室の遅刻が多い。提出物が期限までにそろわない。	c	2学期学校遅刻が増加。提出物が期限までにそろわない。	c	改善	授業や学校生活に対する意識の根本的な指導が必要。また人間関係で大きく左右される面がある。